

## 2022年度第6回(2023年第4回)理事会議事録

日 時:2023年7月21日(金) 14:00~17:30

場 所:トラスティカンファレンス・京橋 / WEB (ZOOM) 形式

現地出席者:宇野 隆(理事長)、溝脇 尚志(専務理事)、青山 英史、有賀 久哲、井垣 浩、石川 仁、  
内田 伸恵、大野 達也、岡嶋 馨、小川 和彦、古平 毅、佐々木 良平、澁谷 景子、高橋 健夫、村上 祐司  
(以上理事)、生島 仁史、塩山 善之、(以上監事)茂松 直之(第36回大会長)  
角田 怜子、鈴木弘美、山内蓉子 (以上事務局)

[WEB出席]:大西 洋、櫻井 英幸、中村 和正(以上理事)、寺嶋 秀夫(顧問会計士)

(敬称略)

### 審議事項

#### 1. 2023年第3回理事会(2023/6/9) (溝脇専務理事)

前回(2023/6/9)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。

#### 2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)

1)2023年5月28日から2023年7月7日までの入会申請は32名[内訳\_正会員9名、准会員23名]であることが報告され、承認された。

2)2023年7月7日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。

- 会員総数:4,333名 [内訳\_正会員2,272名、准会員1,966名、名誉会員52名、賛助会員38社、国際賛助会員5名]
- 退会者:10名[正会員5名、准会員5名]
- 正会員内訳:医師2,051名 歯科医師45名 医師以外176名(医師比率90.26%)
- 男女比率:正会員[男性1,827名、女性445名]、准会員(男性1,507名、女性459名)
- 専門医数:1,401名(男性:1,137名、女性:264名)
- 会費納入率:当年度 正会員92.69%、准会員89.78%
- 7月12日現在の2年分会費未納者リストが提示され、8月末までに会費納入かない場合は定款10条の定めにより退会となるため、関係各所に声掛けする旨 役員に協力依頼が求められた。

#### 3. 新規等予算案の財務・総務委員会予備審査について (溝脇専務理事)

財務・総務委員会に申請があった以下の次年度(2023年9月-2024年8月)新規・再申請事業予算案について、各担当役員よりの説明と、財務・総務委員会での審議の結果が報告された。財務・総務委員会よりの留意事項等について申請委員会毎に検討し、次年度新規事業として進めることが承認された。

- ①脊椎SBRT促進事業(がん放射線治療推進委員会)
- ②AIシステム構築事業(将来計画委員会 AI-WG):[2年以内の評価計画書再提出等条件付き承認]
- ③緩和好事例集作成(緩和的放射線治療委員会)
- ④国際事務局費(国際委員会)

尚、以下事業については他のアンケートのサーバーと同一になっていないか等も再確認し、医療安全委員会での今後の利用も含めて再検討要するため、継続審議案件とすることが確認された。

⑤放治における品質保証 Quality Indicator を用いた WEB 解析システム(医療安全委員会)

4. 2023 年度各事業予算案(溝脇専務理事)

2023 年度(2023/9~2024/8)各事業・イベント予算案について、各担当理事より、説明がなされ、承認された。最終の予算案は、今回承認がなされた案と、次回 8/26 理事会にて提案のものにて確定する旨、確認がなされた。

5. 2022・2023 年度 委員会委員追加推薦について

6 月 9 日理事会承認以降の委員会委員追加について、医療安全委員会 小川委員長より以下の通り追加推薦があり、承認された。

医療安全委員会:須田 雄飛会員(都立駒込病院)

岡本 裕之会員(国立がん研究センター中央病院)

水野 統文会員(埼玉医科大学総合医療センター)

6. 代議員選挙ダイバーシティ枠設定について(宇野理事長)

代議員選挙におけるダイバーシティ枠設定案について、将来計画委員会での提案・審議の結果が説明され、立候補の方法(ダイバーシティ枠と一般選挙は併願可とし女性枠、物理・技術枠のどちらか1つ選択)や、運用方法等の概略案(得票数が一般選挙の当選ライン以上の場合是一般選挙での当選とし、ダイバーシティ枠対象外。その以下はダイバーシティ枠を適用等/女性枠:約 20 名、物理・技術枠約:5 名、各々必要最低得票数を設置する等)が提案され、今後この案を元に、細則等を作成し、総会での説明を経て、最終的に次回代議員選挙に適用できるよう検討を進めることが承認された。

7. JRR 誌優秀論文賞の内規案について(佐々木理事)

JRR 誌の臨床系論文投稿を勧奨することを目的とした「日本放射線腫瘍学会優秀論文賞」の新設が前回理事会で承認されたが、内規案(直近 1 年の当会会員採択論文のうち、臨床/医学と、物理分野から各 1 編選考等)が提案され、承認がなされた。これから受賞者の選定を行い、第 36 回学術大会にて第 1 回の受賞者の表彰を行う予定である旨、確認された。

8. ASTRO-JASTRO MOU 案について(青山理事)

ASTRO との初めての MOU 締結に向けて、ASTRO からの回答・一次案検討案が提示された。協業分野は①メンバーシップ②両会学術大会での合同セッション③教育に関する項目で、②の学術大会合同シンポでは偶数年(2024 年)当会開始の場合は当会で ESTRO・ASTRO との 2 つの合同シンポ同時開催となるが、奇数年(2025 年)開始の場合は、ESTRO への演者座長派遣と重なるパターンとなることが説明された。「演者・座長の旅費・宿泊費等の費用は各学会の規定に基づき各学会が負担すること」が記載されて

いないため、その点を追記し、その他詳細は国際委員会で検討することが承認された。

9. 施設認定 認定資格の取り消しについて(小川理事)

2023年5月31日に閉院した1施設について認定資格の取り消しが承認された。

10. 放射線治療専門医資格返上について(古平理事)

退会・ご逝去に伴う2名の専門医資格喪失が承認された。

11. 2023年地域貢献賞受賞者推薦 (有賀理事)

賞等推薦委員会における審査内容が報告され、以下の通り受賞候補者が推薦され、承認がなされた。

○放射線治療かたろう会(代表 山本鋭二郎会員)

「放射線治療かたろう会」

○大城佳子会員(筑波メディカルセンター病院)

「地域医療を閉口した若手放射線腫瘍科医、放射線診療技師、看護の育成活動」

12. 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン改訂委員推薦について(井垣理事)

日本婦人科腫瘍学会より「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン」改訂委員推薦依頼があり、GL委員会検討の磯橋文明会員(奈良県立医科大)・梅澤 玲会員(東北大学病院)を推薦する旨、承認された。

13. プライバシーポリシーの改定について(大野理事)

2022年4月施行の個人情報保護法改正に合わせたプライバシーポリシーの改定案が示され、承認された。既に、セミナー事業においては「個人情報保護・セキュリティ確保のための遵守事項」を定め、委託契約書と共に提出を依頼しているが、今後事業によって規定等が必要な場合は、各委員会にて素案を作成し、規約委員会・事務局へ提出する旨確認された。

14. 「粒子線治療がしっかりわかる本」につき(岡嶋理事)

校正中となっていた一般向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」について、前回理事会以降、各役員へ更なる意見募集を行い、指摘箇所の修正を反映した原稿案が事前配布され、最終版の承認がなされた。8月中に出版する予定である旨が説明された。

15. FARO 教育委員会の短期海外研修マッチングプログラムについて(内田理事)

FARO 教育委員会企画の短期海外研修マッチングプログラムについて、日本での受入先施設の協力依頼があり、内諾を得ているQST病院を推薦することが承認された。また、今後、研修生も募集予定であることも報告された。

16. 粒子線治療部会役員変更等について（小川理事）

新部会長(櫻井 英幸部会員)、新常任幹事(沖本 智昭部会員、塩山 善之部会員)、新幹事(尾形 毅部会員、松本 陽部会員、青山 英史部会員、石川 仁部会員、小藤 昌志部会員、鈴木 志恒部会員)、新顧問幹事(辻 比呂志部会員、玉村 裕保部会員、村上 昌雄部会員、白土 博樹部会員)の推薦、及び退任幹事(根本建二部会員、溝江 純部会員、脇 隆博部会員、和田 仁部会員)が承認された。また、粒子線治療部会と委員会の統合についての検討開始が依頼された。

17. 高精度放射線外部照射部会の役員(幹事)の追加について(大西理事)

新幹事(中村 直樹部会員)の推薦が承認された。

18. 高精度部会アンケート調査の委託契約について(大西理事/溝脇専務理事)

2021年、隔年実施のSBRT実態調査、IMRT実態調査を1つに統合した独自システム構築が補正予算により承認され、新システムによるオンライン調査が実施された。今年度(2022年度)調査実施年ではないが、データ維持、サーバー管理費について継続的に費用がかかる旨確認された。

次年度は調査実施の年であるが、再検討する旨、承認された。

### その他審議事項

19. 「放射線治療需要の将来予測」の作業の進め方について（大西理事）

「放射線治療需要の将来予測」について、厚労科研大西班が全体を見ながらDB委員会・がん放射線治療推進委員会：放射線治療の需要予測小委員会とで連携しながら進めていく旨承認された。

20. 放射線品質管理機構 法人化に向けての意見募集（溝脇専務理事）

放射線品質管理機構より法人化に向けての意見伺いがあり、提案の「NPO法人」については、会員は市民が前提のため、日本放射線治療専門放射線技師認定機構、医学物理士認定機構と同様、「一般社団法人」格が適切であると回答すること、また、放射線治療専門放射線技師、医学物理士等の業務の明確化を要望する旨が承認された。

21. 文科省訪問について（大西理事）

7/20 大西理事と高橋理事とで文部科学省 高等教育局 医学教育課を訪問し、放射線治療の教育の充実のための意見交換を行った旨報告された。コアカリキュラムに対する各大学の放射線治療教育を充実させる対策として、①JACME（日本医学教育評価機構）との面談 ②(文科省からの)各大学への周知資料の作成を、がん放射線治療推進委員会を中心に進める旨が確認された。

## 報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告（宇野理事長/溝脇専務理事）  
現在までの業務状況・活動報告がなされた。
2. 日本医学会役員選挙結果、放射線治療計画ソフト販売終了について(宇野理事長/溝脇専務理事)
  - 6月23日の日本医学会臨時評議委員会にて、新役員(幹事:臨床内科系)にJRS理事長の青木茂樹先生が就任した旨、報告された。
  - 「放射線治療計画ソフトウェア Pinnacle3」の新規販売が終了し、サポートとソフトライセンス期限も2024年末となる旨のお知らせがあったことが報告された。なるべく長く利用できるよう(株)フィリップス・ジャパンも協力会社に働きかけている旨が報告された。
3. 会計報告（溝脇専務理事/寺嶋会計士）  
2022年度の現状の決算予測案が示され、全体の経常収支差額は、昨年は赤字決算となったが、本年度は若干の黒字、公益事業部門では赤字、特定費用準備資金の取崩収入が入り、公益事業部分は余裕のある差引収支赤字となり、公益事業については比較的余裕のあるマイナス収支になる見込みである旨、説明された。
4. 第36回学術大会準備状況(茂松第36回大会長)  
最新のプログラム案が示され、準備を進めている旨報告された。
5. DB委員会報告:JIRA経済部会放射線治療委員会との協働作業(中村理事)  
2014-2020年度までのNDB(National Database:レセプト情報・特定健診等情報データベース)を用いた放射線治療件数の実態把握について、JIRA経済部会放射線治療委員会と協働し、2023年より解析を行った結果が報告された。放射線治療専門医数が多いほど人口100万人当たりの放射線治療件数やIMRT件数が多いこと等の解析結果について、都道府県別の分析も含めて、NewsLetter等で報告する旨確認された。
6. 粒子線治療委員会報告:先進医療会議への報告書作成状況について(櫻井理事)  
昨年7月頃より作成を開始した先進医療会議への報告書についてシステムティックレビューやレジストリ解析を行い、作成を進めている旨報告された。
7. 国際委員会活動報告(青山理事)  
FARO-LDP候補者の募集・選定を行い、岸徳子会員(京都大)を推薦した旨報告された。2023/5/15ウィーンで開催された2023 ESTRO-JASTROシンポジウムについて、前・国際永田委員長よりの報告書が提出された(演者:原田浩委員(京都大)他3名/座長:Anna Kirby 会長、永田委員長 /テーマ: Biology adjusted radiation therapy/参加者:約50名 JASTROから約10名)。FARO Research Committeeから

JCO Global oncology に論文が掲載された旨報告された。

1. 医学物理士委員会報告:「医学物理士の今後のあり方」意見交換会報告 (大野理事)  
2023年4月16日開催の標題の会の参加報告がなされ、「物理技術専門職の現状ならびに今後の課題(厚労科研大西班の研究成果から)」についての資料が説明され、物理技術専門職業務の記載文言について、医師が責任者である旨の表現(例:治療計画業務支援者等)の明確化が要望された。
  
8. ガイドライン(GL)委員会報告:脳腫瘍診療ガイドラインのシステムティックレビュー委員公募結果/前立腺癌診療ガイドライン 2023年版査読結果 (井垣理事)
  - 脳腫瘍診療ガイドラインのシステムティックレビュー委員について、JASTRO-gramによる公募を実施し、計19名(応募者16名+GL委員推薦3名)を選出した旨報告された。
  - 前立腺癌診療ガイドライン第4版改訂委員会より「前立腺癌診療ガイドライン 2023年版」の外部評価依頼があり、2023年5月31日~6月14日GL委員会にて査読し結果を送付した旨報告された。また現在、外部評価委員のCOIも提出依頼があり対応している旨説明された。
  
9. 広報委員会報告:2023年プレスカンファレンス/特定資金事業:放射線治療を題材にしたコミック(岡嶋理事)
  - 2023年プレスカンファレンス実施案について、9月22日「進化を続ける放射線治療—さらなる機能温存と適応拡大」のテーマにて、岡嶋広報担当理事を中心に、宇野理事長、茂松大会長、大野理事、澁谷景子理事にて、プログラム準備を進めている旨報告された。
  - 放射線治療を題材にした漫画コンテスト実施について、5月当会会員からの公募18編のシナリオのうち、3編を基本シナリオとし、「工学院専門学校」漫画科の生徒を対象に、コンテストを開始する旨報告された。審査は一次「ネーム」(審査結果9/15)、二次「作画」(審査結果12/7)の2段階審査とし、最優秀賞、優秀賞等の作品を選考する旨説明された。
  
10. がん放治推進委員会報告 (石川理事)  
医学生・研修医のための放射線治療セミナー開催報告が以下なされた。
  - ・ Advanced オンラインセミナー (2023年5月27日:2時間 ZOOM/最多時:参加者79名)、
  - ・ 第40回 東京(2023年7月1日、半日、大崎ゲートシティ/後援:VARIAN) 実行責任者:和田優貴会員(秋田大)、副責任者:村本耀一会員(順天堂大)「Eclipseを用いた治療計画実習(椎体転移症例、III期肺癌症例)、RALS実習/参加者数:17名(参加登録21名、当日キャンセル4名)
  - ・ 第41回 大阪(2023年7月8日、半日、ホテルフクラシア大阪ベイ/後援:エレクトラ) 実行責任者:木元拓也会員(京都府立医大)、副責任者:岸徳子会員(京都大)「Monacoを用いた治療計画実習(椎体転移症例、III期肺癌症例)、RALS実習」/参加者数:14名(参加登録16名、キャンセル2名)オンラインセミナー受講後アンケートから、受講後の放射線治療への志望度が上昇した旨説明された。

11. 教育委員会報告:看護セミナー報告・今後の予定(内田理事)

- 第 38 回がん放射線治療看護セミナー開催および収支報告が以下なされた。

2023 年 6 月 24 日/ハイブリット開催/TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール/参加人数 570 名 (JASTRO 会員:141 名、日本がん看護学会会員:187 名)/「放射線治療における遅発性反応と看護」

- 2024 年 6 月 21 日～23 日、ESTRO School in Japan (大阪) の開催を予定している旨報告された。

12. AI-ワーキング(WG)報告 (村上理事)

本WGのアウトプットは「AI 研究開発のためのデータベースプラットフォーム構築」とし、2022 年度予算について一旦承認を受けたが、8 月末までの年度内実施が難しいため、再度スケジュール、企業選定について見直し、6/2～AI-WG、6/23～7/3 将来計画委員会にて審議を実施。企業は RTQM 社を推薦し、財務・総務委員会へ次年度(2023 年度)予算への繰越申請を行った旨、報告された。

13. QA 委員会報告:第三者出力線量評価認定制度について (澁谷理事)

- 2023 年 6 月 1 日～7 月 12 日第三者出力線量認定・第 1 回認定施設申請にて第三者出力線量評価認定施設への申請施設:36 件(第三者出力線量評価認定機関への申請件数:1 件)の申請があった旨報告された。今後は 8 月に作業部会、審査委員会を設置し審査を行い、9 月以降に認定施設・機関の公表をする旨説明された。
- 医用原子力技術研究振興財団 医療放射線監理委員会出席報告として、同財団の JASTRO 施設認定における治療用線量計校正および出力線量測定実績状況等が報告された。

14. 緩和的放射線治療委員会報告 (高橋理事)

- 緩和的放射線治療好事例集について、サンプルとしてショートミーティング、研修医教育、訪問診療医との連携等の事例を集め冊子体として作成・配布の計画中の旨報告された。(新規予算申請済)
- 6 月 9 日理事会にて 2023 年度新規事業として承認されたレセプト研究「骨転移への緩和的放射線治療の医療経済評価」の研究計画書が示され、準備を進めている旨報告された。
- 2023 年 6 月 30 日第 28 回日本緩和医療学会学術大会にて ACT 共催で開催されたランチョンセミナー“放射線療法が支える緩和医療の実際”について 500 名ほどの参加があり大変盛況であった旨報告された。

15. 放射線治療専門医制度委員会報告:JRS 理事会 (古平理事)

サブスペシャリティ研修の論文執筆について追加の対応(研修用申請は先行医は併せて 3 名以内)、また今後機構からの調査にも対応できるよう3月末の研修修了時にサブスペシャリティ研修では診断と治療のどちらかを選ぶかについて届出を求めることになること等のお知らせが JRS 会員専用ページへ掲載済みである旨報告された。